

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 2 年 10 月 8 日 (2020.10.8)

【公開番号】特開 2019-72373 (P2019-72373A)

【公開日】令和 1 年 5 月 16 日 (2019.5.16)

【年通号数】公開・登録公報 2019-018

【出願番号】特願 2017-202219 (P2017-202219)

【国際特許分類】

A 4 5 D 20/10 (2006.01)

【F I】

A 4 5 D 20/10 Z

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 8 月 27 日 (2020.8.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

加熱源としての発光体 (4) と、人体の接触または近接を検知するタッチセンサ (12) とを備えており、

発光体 (4) の点灯状態において、タッチセンサ (12) が人体を検知する検知状態から、人体を検知しない非検知状態になると、発光体 (4) が消灯するように構成されていることを特徴とするドライヤー。

【請求項 2】

発光体 (4) がハロゲンランプである請求項 1 に記載のドライヤー。

【請求項 3】

一端に照射口 (9) を有する筒状の本体ケース (1) を備えており、
本体ケース (1) の内部に発光体 (4) が配置されて、照射口 (9) に正対しており、
本体ケース (1) の外面にタッチセンサ (12) が配置されている請求項 1 または 2 に記載のドライヤー。

【請求項 4】

本体ケース (1) の周方向の全長にわたってタッチセンサ (12) が配置されている請求項 3 に記載のドライヤー。

【請求項 5】

本体ケース (1) の内部に配置される送風手段 (3) を備えており、
本体ケース (1) の一端に照射口 (9) を兼ねる吹出口 (8) が形成され、他端に吸込口 (7) が形成されている請求項 3 または 4 に記載のドライヤー。

【請求項 6】

ユーザーによりオンオフ操作される電源スイッチ (14) を備えており、
電源スイッチ (14) がオフ状態のときに、タッチセンサ (12) が人体を検知しても、発光体 (4) は点灯しないように構成されている請求項 1 から 5 のいずれかひとつに記載のドライヤー。

【請求項 7】

発光体 (4) の消灯後に、電源スイッチ (14) がオン操作されないまま、タッチセンサ (12) が人体を再検知しても、発光体 (4) は点灯しないように構成されている請求項 6 に記載のドライヤー。

【請求項 8】

発光体（４）の消灯後に、電源スイッチ（１４）がオン操作されて、かつ、タッチセンサ（１２）が人体を再検知すると、発光体（４）が点灯するように構成されている請求項 7 に記載のドライヤー。

【請求項 9】

タッチセンサ（１２）が人体を検知する状態で、電源スイッチ（１４）がオン操作されて初めて発光体（４）が点灯するように構成されている請求項 6 から 8 のいずれかひとつに記載のドライヤー。

【請求項 10】

発光体（４）を収容する本体ケース（１）の外面に、電源スイッチ（１４）の操作部（１５）が配置されており、

操作部（１５）がタッチセンサ（１２）を構成する請求項 6 から 9 のいずれかひとつに記載のドライヤー。

【請求項 11】

発光体（４）の消灯の時点から計時を開始するタイマー（６５）を備えており、

計時を開始してからの経過時間（ T ）が所定の待機時間（ T_1 ）に達する前に、タッチセンサ（１２）が人体を再検知すると、発光体（４）が点灯するように構成されており、

経過時間（ T ）が待機時間（ T_1 ）に達してから、タッチセンサ（１２）が人体を再検知しても、発光体（４）は点灯しないように構成されている請求項 6 に記載のドライヤー。

。